

(様式 5 : 全対象事業共通)

令和 7 年度第 1 回エネルギー構造高度化・転換理解促進事業評価報告書

補助事業名	水素インフラを活用した水素社会加速化実証事業
補助事業者名	石川県
補助事業の概要	本県の水素インフラ（春蘭の里「ゼロカーボンビレッジ」、能登、金沢水素ステーション）を最大限活用した実証事業を実施することを通し、「水素」関連産業への県内企業の参入をより一層強力に後押しすることを目的とし、域内への水素供給の実証を実施する他、本県の水素インフラの拡充及び県内企業の水素ステーション事業への参入実現を目的としたコンパクト水素ステーションの実証事業を開始した。
総事業費	99,920,000 円
補助金充当額	99,920,000 円
事業終了時点で達成すべき成果目標【必須】 （提案書から転記）	<ul style="list-style-type: none"><li>・春蘭の里における農家民宿等 3 か所への水素吸蔵合金の供給</li><li>・春蘭の里におけるイベントへの集客（修学旅行生、企業等）100 名</li><li>・春蘭の里を能登の分散型インフラ実習の場としてモデル化</li><li>・高圧ガスユニットの完成、充填実証の実施</li></ul>
事業終了時点で達成すべき成果目標の達成状況【必須】	<ul style="list-style-type: none"><li>・春蘭の里における農家民宿等 3 か所への水素吸蔵合金の供給 春蘭の里「ゼロカーボンビレッジ」で製造した水素を県内企業が開発した水素吸蔵合金キャニスターに充填、域内の農家民宿（3 か所）に配送し、農家民宿に設置した水素グリルの燃料として活用する実証を行った。</li><li>・春蘭の里におけるイベントへの集客（修学旅行生、企業等）100 名 FC ドローン、FC キックボード等を活用した修学旅行生向けの水素学習会、域内外の企業・県民向けの水素、エネルギーの地産地消、分散型インフラに関する啓発イベントを 5 月、9 月および 11 月に実施した。参加者は合計 191 名であった。</li><li>・春蘭の里を能登の分散型インフラ実習の場としてモデル化 上記 2 点の取り組みから、水素グリル等の分散型インフラを用いて災害時でも救助が来るまでの間に最低限の熱・電力を自給できるモデル体制を構築した。</li><li>・高圧ガスユニットの完成、充填実証の実施 高圧ガスユニットは域外からの水素配送が必要となることから、域外輸送に適したユニットを開発し、既存の水素ステーションを活用した充填・輸送実証を行った。</li></ul>

補助事業の実施に伴い締結された売買、貸借、請負その他の契約	契約（間接補助）の目的	高圧水素ユニットを活用した差圧型コンパクト水素ステーション実証
	契約の方法	随意契約
	契約の相手方（間接補助先）	北酸株式会社
	契約金額（間接補助金額）	70,000,000円
	契約（間接補助）の目的	ゼロカーボンビレッジにおける水素実証
	契約の方法	随意契約
	契約の相手方（間接補助先）	日本環境技研株式会社
	契約金額（間接補助金額）	29,920,000円
来年度以降の事業見通し	令和8年度も継続して実証事業を実施する予定である。	

（備考）

- 1 事業完了した日から3ヶ月以内の提出をお願いします。
- 2 定量的成果目標の欄には補助金応募申請書提出時に設定した成果目標をそれぞれ記載すること。
- 3 補助事業の成果及び評価の欄には、公募要領8. で記載した内容に対応した、定量的な成果実績と評価を記載すること。それ以外にも、定性的な成果実績や、進捗度、利用量並びに効果等といった別の定量的な指標があればできる限り数値を用いて記載すること。
- 4 契約の方法の欄には、一般競争入札、指名競争入札、随意契約の別を記載すること。間接補助を行った場合は、記載不要。
- 5 来年度以降の事業見通しの欄は、本事業に来年度以降も補助金を充当しようとする場合のみ記載。